

『スタート！友情物語』1ペテロ1:3-9

1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、

1:4 また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しほまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。

1:5 あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。

1:6 それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれません。

1:7 あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と讃美とをもたらすのです。

1:8 あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。

1:9 それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けていますからです。

● 主題

キリストとの友情を得て歩んでいきたい

- I. まず神をほめたたえよう
- II. 約束の祝福を受け取り、信じよう
- III. 救い事実の中で、前進しよう

● 著論

『走れメロス』太宰治

その昔、とっても疑い深い王様がいました。人を信用する事ができなくて、気に入らないと人をすぐに殺してしまう王様がいて、その怒りにふれ処刑を命じられる。メロスは、せめて妹の結婚式に出席してから…と懇願し、親友のセリヌンティウスに身代わりになってもらい、三日の猶予を得た。

メロスは、必死で走り続けて妹の結婚式に出席して、また帰りも必死で走ってお城に向かいました。途中で大雨のために川が氾濫したり、山賊に襲われたりしました。挫折しそうになったメロスでしたが、そこに水があって、それを飲んでもう一度、彼は走り出すことができた。

夕方、まさに友人が処刑されそうになった時、メロスは叫ぶ。「処刑されるのは私だ。メロスはここにいる！」

メロスは目に涙を浮かべて友人に言う。

「私を力いっぱい殴ってくれ。私は途中でたった一度、君が殺されても仕方がないと思ったことがあった。」

セリヌンティウスは、メロスを殴ってから、優しくメロスに言った。

「今度は私を殴れ。私はこの三日間でたった一度だけ君を疑った。」
二人は抱き合って声を上げて泣いた。この様子見ていた王は、二人に近づき声を上げた。

「おまえらの望みは、かなったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。真実とは決してむなしい妄想ではなかった。どうか、わしも仲間にしてくれまいか。どうかわしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

途中疲れ切ってあきらめそうになったメロスが気持ちを持ち直して走り続けたのはなぜだったか…。その2人の間に固い「友情」があったからです。

人を信じる事のできなかった王もこれを見て、ほんとうに信じる事が出来るものがあるんだ…と感動したんです。

先に2人の間に友情があったから、途中で「もうやめだ」とメロスは思っても、やっぱりあの自分を信じて待っている大切な友のために走ろうと思いました。

また友のセリヌンティウスもその待っている中で一度だけメロスを疑ったと告白しています。でも彼は、友情があったから、メロスを信じることに決めたのです。

果たして、わたしたちは、イエスさまとの間にそれほどの友情を持っているか？ わたしたちは、イエスさまとの間にそれほどの友情を感じているか？
イエス様はわたしたちのために身代わりとなって、十字架にかかるほどにわたしたちを愛してくださった。それほど愛してくださっているイエス様の愛情を信じて、またイエス様を救い主として信じて、救われました。

ならば、今度は「救われたわたしたち」は「最高の友情を見てくれたイエス様」との間に友情の中に生きることが大切だ…と覚えていて欲しいんです。
それが、「信仰」でありと「救いをうけとる」ことです。

つまり、わたしたちには、イエス様との間に、最高の友情へと招かれています。
今年一年。その信仰、つまり友情と救いのもとで更に生き生きと歩みたいと願います。

●本論

I. まず神をほめたたえよう

1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。

まず！わたしたちのもっとも幸いな信仰表現は、主をほめたたえる事です。
”レツ・プレイザロード（主をほめたたえよう！）” 「ハレルヤ！」がそうです。

先ほどの歌詞にもあったように、今日という日を創造されたのは、神さまです。
わたしたちの目に入るすべてのものを創造されたのは神さまです。
どんな事が起こっても、主は共におられ、わたしたちを導き守り、安心を与え、

祝福を与えてくださる・・・そんな神さまが共におられる事の喜びを心から賛美をもって表そうではありませんか。
全ての始まりに賛美をもって主に期待するものとなる1年でありますように。

Ⅱ. 約束の祝福を受け取り、信じよう

①神さまは、わたしたちをあわれみ（真実を尽くし）、新しい人生をくださった。
1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、それは、とてもわたしを愛してくださるこのイエス様を、「主」として、同時に「真実な友」として共に歩み、生きる新しい人生です。
どんなところをとっても安心と慰め、励ましと喜び、希望が伴います。

②神さまは、イエス・キリストの復活を通して、希望を与えてくださっています。
:3b) 死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与える、復活は、全ての事に対する「勝利」を表しています。
これは確かな希望です。約束の復活を見つめる時、その希望の中でわたしたちの生きざまは変えられていくのです。

③ 神さまは、天の御国においてわたしたちにすばらしい財産を用意しています。
1:4 また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しほまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。

聖書は、わたしたちの将来、再びこの地上に来られるとき、また天の御国に迎えられた時にこそ、その救いが完成されることを示しています。
それも、そこにいたるまで、わたしたちの努力や力によるのではなく…
1:5 あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、『神の力により、信仰によって守られています。』とあるのです。

ですから、わたしたちは、幸いです。
神さまが、わたしたちに真実な永遠の祝福を約束してくださっているのです。
そしてそれを保証できるのは、「神の力」と「信仰」によるのです。

Ⅲ. 救い事実の中で、前進しよう

1:8 あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。
1:9 それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けていますからです。

その救われている事を喜び、イエス様に信頼して生きる人生は、ときに様々な試練を通される事があるかもしれません！

しかし、聖書は証言します。わたしたちはたとえそのような試練や問題に出くわしても喜ぶ事ができる。いや、『喜びに満ちあふれている』とあるのです。

それは、わたしたちのイエス様との「友情」がはっきりする時、絆がしっかりと見いだせるすばらしいチャンスとなるからです。

ですから、もしあなたが問題や悩み、困難を抱えているなら、イエス様に目を向け、この方の愛を深く思いめぐらし、賛美するのです。

ちょうど、メロスが倒れてもうダメだと思っていた時に、そのそばに岩から流れる水があり、それを飲んで親友を思い出し、彼の中に新しい勇気と希望、活力がわき上がりはじめたように、わたしたちの中にはそれ以上のすばらしい希望と勇気、力がわき上がり、またすばらしい祝福を受け取る事が出来るのです。

さいごに)

もう一度御言葉に目を向けて。この「信仰」を「友情」に置き換えてみます。

1:6 それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいます。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれません。

1:7 あなたがたの【キリストとの友情】は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。

1:8 あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。

1:9 それは、あなたがたが【キリストとの友情】の実りとして魂の救いを受けているからです。

この1年のはじめに、どんなときにも賛美と喜びをもって、イエス様との『友情』をしっかりと確認できる事を喜びとしましょう。

ひとつ足ひとつ足、主とともに、与えられている救いの喜びをしっかりと自分のものとして前進する歩みを、共に励ましあいつつ進めましょう！